

【港北区】平成 29 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

(03)

開催日時	平成 29 年 9 月 4 日 (月) 9 時 55 分 ～ 11 時 00 分
場 所	港北区役所 4 階 特別会議室
出席者	<p>【座 長】佐藤祐文議員</p> <p>【議 員：7名】白井正子議員、酒井誠議員、 川口たまえ議員、望月康弘議員、大山しょうじ議員、 酒井亮介議員、豊田有希議員</p> <p>【港北区 : 28名】横山区長、林副区長、 田畑福祉保健センター長、 吉川福祉保健センター担当部長、 中田土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成 28 年度個性ある区づくり推進費の決算について 2 平成 29 年度個性ある区づくり推進費の執行状況について 3 平成 30 年度 港北区予算編成の考え方について 4 その他 (報告事項) <ol style="list-style-type: none"> (1) 港北区におけるラグビーワールドカップ 2019TM及び 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた取組について (2) その他

- 1 平成 28 年度個性ある区づくり推進費の決算について
- 2 平成 29 年度個性ある区づくり推進費の執行状況について
- 3 平成 30 年度 港北区予算編成の考え方について
- 4 その他（報告事項）

(1)港北区におけるラグビーワールドカップ2019™及び

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組について

(資料説明・・・区長、副区長)

大山議員：

今回も、非常に分かりやすく見やすい資料となっており、評価する。

まず、新横浜駅周辺の混乱防止対策訓練について、回数を重ねて参加団体数も増え、訓練内容もより良いものになってきていると思うが、これまでの訓練の参加団体数、取組内容、良くなった点などを経年で把握できる資料をまとめてほしい。(資料要求)

橡木総務課長：

帰宅困難者訓練は回数を重ねるごとに、各ホテルや宿泊可能な施設を含めて、それぞれが自主的に動く流れが出来てきていると感じている。

資料については、内容をまとめて報告させていただく。

発 言 の
要 旨

大山議員：

次に、放置自転車対策について、28年度は全駅で休日にも撤去作業を実施したが、結果を見るとやはり休日の方が平日よりも撤去台数が多い。

今後も引き続き取り組んでいただきたいが、28年度休日に取り組んでみての所感を伺いたい。

小野地域振興課長：

休日と平日では利用者が異なるので、実態を把握し、更なる充実を図りたい。また、監視員の配置による効果も大きいと思うので、引き続き効果的な活用を行っていく。

大山議員：

最後に、保育所体験事業「OPEN!港北の保育園」について、就職者の確保に至るまでは難しい面もあるようだが、この事業を26年度から始めて、3年間実施してみてもの所感を伺いたい。

中田学校連携こども担当課長：

本事業は、26年度からスタートして3年だが、区内保育所への就職者数ということでは厳しい状況にある。しかし、他の近隣自治体でも保育士確保に苦労している状況は同じなので、引き続き保育所見学ツアーや、就職相談会を行っていく。

市で行っている見学会に比べ、区内保育所見学ツアーは、個人で直接保育園へ申し込む必要がないことや、1日に3～4件の保育園を見学できる

ことから、非常に有効であると考えている。

今後は、参加者のアフターフォローを積極的に行い、区内保育所への就職につなげていきたい。

酒井[亮]議員：

両親教室の委託事業について、昨年度実績として参加申込の倍率が高く、今年度は更に上回る状況となっている。

今年度は拡充して、地域ケアプラザでも開催することだが、地域ケアプラザでの拡充で申込増加分の対応ができるのか、またどろっぷでの開催分を増やす可能性について、所感と今後の考えを伺いたい。

石原こども家庭支援課長：

昨年度は、どろっぷとどろっぷサテライトで実施したが、申込数が多く、申込者の希望に添えない結果となった。

今年度後半には、地域ケアプラザでも開催を予定しているが、周知が遅れた関係で、申込数が少ない状況である。

9月に地域ケアプラザ2か所で、両親教室を開催するので、その状況を見ながら、どろっぷを含め、来年度のより効果的な開催方法、周知の仕方を検討していきたい。

また妊娠期の支援の充実として、両親教室以外にも、妊娠初期から乳幼児のいる家庭との交流の機会をつくり、子育てに必要な知識や情報の収集、仲間づくりができるような場についても、来年度は考えていく。

酒井[亮]議員：

「赤ちゃん会」について、需要がありそうな割には、参加者数が年々減少している一方で、0歳児の認可保育所申込者数は増加しており、ここに相関性はあるのか。この事業も重要だと感じているが、今後に対する考えを聞きたい。

石原こども家庭支援課長：

参加者の実人数は、ほぼ横ばいとなっているが、延人数が減少している。これは0歳児で保育園に入る方が増えてきているため、一人あたりの参加回数が減少していると考えている。

また、年8回の開催では、一度欠席してしまうと、次の開催まで間が空いてしまうため、参加しにくく感じてしまうことも考えられる。

「赤ちゃん会」は、初めての子育てをする方が、様々な場所にデビューするための事業であるので、今後、アンケートを取るなど、参加者のニーズを把握しながら、実施方法を検討していく。

酒井[亮]議員：

よろしくお願ひしたい。

最後に、眞子様のご婚約について、区として何か出来ることはないか。

来年の秋のご成婚に向けて、区の盛り上がりという点で、連動した企画等の検討をお願いしたい。(要望)

豊田議員：

「緊急時情報伝達システム」について、今年も何度か使用する機会があったが、現状どの範囲まで対応しており、今後どのようなシステムの使用を目指すのかを伺いたい。

林副区長：

本システムは金沢区で始めたものだが、金沢区では連合町内会長、単会の会長に情報を伝えるもので、登録する件数は1,000件程だと聞いている。

港北区には、鶴見川もあり、1,000年に一度程度の災害時に浸水想定されている北新横浜や小机の地域、また支川では鳥山川、早淵川の近隣の地域の方を対象としており、予算上10,000件ほど登録を可能とした。

現状は、説明会を何度も開催しているにも関わらず、加入が思うように進んでいない状況だが、今秋以降は、支川でもリスクがあるので、例えば高田などについて、連合町内会長と相談しながら、説明会を開催していきたいと考えている。

281世帯という数字は、まだまだ浸透しきれていないと思うので、登録して頂けるよう、リスクの高い地域から継続して取り組んでいく。

豊田議員：

「緊急時情報伝達システム」の名簿の設定は細かくできるのか。災害本部で、災害の発生状況や警報情報に合わせて、該当の地域へ配信先を設定することは可能か。

林副区長：

可能となっている。8月1日の土砂災害警戒情報発令時は、登録頂いている単会の会長と、大曾根、鳥山地域の方に配信を行った。

豊田議員：

このシステムには、更なる周知の必要性を感じている。1件1件登録に至るまでの時間はかかるかもしれないが、必要な設備の状況等を踏まえて、徹底的に周知をお願いしたい。(要望)

次に、「スタンドパイプ式初期消火器具」について、各町内会、自治会で普及してきているが、今後どのような普及を考えているのか。

また、自衛消防組織、具体的には商店街へのスタンドパイプの配備を推進していくことができないか伺いたい。

橡木総務課長：

スタンドパイプは、関心の高い地域には配備済みだが、今後も木密の地域の方等、引き続き啓発活動を行って配備を進めていく。

また自衛消防を行う商店街へのスタンドパイプ導入に対する補助については、今後検討していく。

豊田議員：

過去、歌舞伎町や白楽・六角橋での火災など、商店街で火災が発生する事案があり、港北区の商店街には、木密の商店街が多いので、火災時には

スタンドパイプ式消火器具は有効だと感じている。

あくまで民間という考えもあるが、上手く協力してできれば、配備がかなり進むと思う。

白井議員：

まず「災害時医療整備事業」について、市では、「災害医療アドバイザー」という位置付けがあるが、区にも同様の位置付けはあるのか。また報酬や費用弁償についてはどうなっているのか。

田畑福祉保健センター長：

区でも、港北区医師会の会長と副会長の先生に、災害医療アドバイザーとして、区役所に来て頂き、医療的なアドバイスを頂く事としている。報酬や費用弁償についても、市と同様となっている。

白井議員：

次に、「放置自転車対策事業」について、非常に必要なことと感じているが、駐輪場の整備を急ぐことは可能なのか。

例えば高田駅では、保育所が新設された背景から、電動アシスト付きで前後に子供を乗せるタイプの自転車の台数が増えており、場所を取るので、今までの台数では利用が制限されている。

港北区では、保育園を増やす方向で動いて頂いているので、併せて駐輪場の整備も検討してもらえないか。

河合土木事務所副所長：

高田駅駐輪場対策は、区民の方からも要望を頂いており、現在、調査・検討に入っている。借用できる土地があれば、進めていきたいと考えている。

川口議員：

「災害時のペット対策」について、太尾南公園で実施したペット同伴避難訓練について、もう少し詳細な内容を教えて頂きたいのと、ペットを飼われている方は相当数おられると思うので、今後の方向性について伺いたい。

林副区長：

ペットの訓練には、同伴と同行があるが、今回試みということで、避難所ではペットと一緒に暮らせないという想定で、大綱小学校から太尾南公園に行き、テントを張る同伴訓練を行った。拠点訓練の中で、並行してペットの訓練も行っていくことの必要性を感じている。

川口議員：

災害時のペットへの対応は大きな課題だと思うが、行政の関わり方、役割を明確にしておく必要がある。今回の訓練が試行だとしても、ペットの飼い主にとっては、重要な関心事であり、災害時には公園にテントを張って、ペットを連れて避難できると誤解されたりするので、ペット対策の基

本的なことを決めて周知していかないと、場所の取り合いなど大変なことになると思う。

今後発展させていくために、こういった防災訓練を続けていく予定なのか。

毛利生活衛生課長：

ペットの防災対策について、まずは飼い主に対して、避難所にペットを入れられない想定で、準備をして頂く必要があると考えている。また地域防災拠点の運営委員の方々についても、ペットの避難についてのマニュアルの策定を検討して頂くこととなっている。

現段階で、市としては災害時にペットを連れてきた方に対して、ケージに入れた状態で、一定の場所で飼育することを基本としているが、港北区としては更に一步進めて、高齢のペット等、ケージに入れられないペットと一緒に暮らすための方法等について、地域防災拠点の運営委員の方と飼い主が、一緒に検討していく必要があると考えている。

今年度の訓練については、同行したペットと一緒に暮らすことや、テントを立てる場所の確保などを考えるために、マニュアル作りを進めていく。

川口議員：

どこの訓練会場で行うかは決まっていないのか。

毛利生活衛生課長：

訓練会場については、各防災拠点で訓練の希望があったところに対して、支援する形を取っている。

佐藤議員：

地域防災拠点訓練の際に、生活衛生課が行って、テントを張ったりして、ペット対策の説明をしているということでもいいか。

毛利生活衛生課長：

そのように行っている。申し出のある所に対して、実際に伺ってサポートしている状況である。

川口議員：

次に、「赤ちゃん会」について、開催回数が10回から8回に減ったのは、人手に因る理由が大きいのか。「赤ちゃん会」の参加者からは、回数が減ったことを残念がる声も出ている。現況を詳しく伺いたい。

石原こども家庭支援課長：

単純に人手だけの問題ではなく、地域の子育てサロンなど「赤ちゃん会」以外の部分で拡充を図った。

しかし、「赤ちゃん会」の参加実人数は概ね横ばいだが、延人数は、開催回数を減らした25年度以降減少しているため、現状の方法で良いのかを参加者の声を聞きながら、開催回数も含めて検討していく。

川口議員：

赤ちゃんを抱えている方で、サポートが必要な方は多くいると思う。別の形でサポートを実施し、発展的に「赤ちゃん会」の回数を減らしていくのなら良いが、ただ単に回数だけ減っているように感じるので考えていただきたい。(要望)

望月議員：

鋼管ポール防犯灯のLED化の状況と、新設の防犯灯の申請状況や今後の対応について伺いたい。

小野地域振興課長：

数については、今把握できていないので、後ほどご説明させて頂く。

新設は現在、申請を受付中で、鋼管ポールLED防犯灯の新設のみとなっている。電柱共架タイプのLED防犯灯の新設については、今のところ予定はない。

酒井[誠]議員

ラグビーについて、11月4日に日産スタジアムで日本代表の試合があるが、区の出組状況について伺いたい。7万人収容の会場で開催するのだから、ワールドカップ本番さながらの感覚で取り組んで頂きたい。

また、チケットは、区で手当てをしたり、ラグビー協会から配分されたりしているのか。

林副区長：

チケットの販売要領が決まり、第一弾の販売が開始されているが、市民局から区には対応方法が下りてきていない。

酒井[誠]議員：

7万人の会場で集客が少ないことがないように、全力で取り組んで頂きたい。(要望)

佐藤議員：

「帰宅困難者対策訓練」について、東日本大震災の際に、緊急車両が交通渋滞で動けなかったという現実を踏まえると、現状の訓練の通りには行動できない事が危惧されることから、現実に即した形での訓練の必要性を感じている。初動での組織の立ち上げ方等、シミュレーションして訓練を行うよう、お願いしたい。(要望)

備 考